

研修ニュース



〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 A-6「授業づくり」を実施しました！ 「授業づくりの基礎基本」

【講師】 伊賀市教育アドバイザー 中浦 基之 さん



6月16日(火)に、「授業づくり」の研修講座を行いました。

中浦先生は、「『教えた事』を『学びたい事』に転化すること(有田和正 授業づくりスタートブック 教育開発研究所)。これが授業であるとともに、「『教師が子どもから何か(多様な考え・わからなさ・本気さ等)を引き出すこと』(筑波大学附属小学校 森本隆史)が授業である」と話されました。教師が「教え込む」授業では、子どもたちの「何か」を引き出すことも、「学びたい」という主体性も育てられないことをご示唆いただきました。では、どのように授業をつくっていけばよいのでしょうか。

今回は授業の基礎基本として大切な発問・板書(文字の書き方・子どもの考えの書き方・

整理の仕方等)・ノート指導の技術について教えていただきました。こ

こでは板書について2点あげたいと思います。1つ目は、「1時間の授業の流れがわかる」板書です。そこには「ましがいも含めて子どもの意見が反映されている」こと、「教師の都合の良いように書き換えず、子どもの言葉で書く」「考えの違い、特に対立点がはっきりとするように書く」ことが肝要です。中浦先生の「子どもとともに板書をつくる」という言葉が印象的でした。

2つ目に「1字1字丁寧に正確に書く」板書です。なぜその事が大切なのでしょう。それは見やすさは勿論のこと「文字や言葉を大切にしているということが、子どもたちに伝わる」からなのです。このように具体的な事例を挙げながら丁寧にご講義いただいたことで、アンケートには、日頃の自分の授業をふり返り、明日から「まずこれをやっていきたい」と記す受講者が多くみられました。

ご参加いただいた先生方には今後の実践にぜひ活かしていただくとともに、各校で還流いただきますようお願いいたします。



アンケートより【一部抜粋】

・今日の研修を受講する中で、自分の今までの指導や授業をふり返り、子どもたちに「教えた」という気持ちから、教師の言葉で説明してしまったり、「できた?」「わかった?」と言ってしまったりしているなど反省するところがたくさんあった。子どもたちの考えや疑問、発言を大切に

して、子どもたちの反応について勇気をもって「待ってみる」ことをやってみようと思った。【小】
・「これだけは何としても教えた」と子どもに「教えてはならない」という言葉が印象に残った。「教えたこと」を「学びたいこと」に転化すべきなのだとわかった。私は板書をする時に

子どもの考えを、自分が答えてほしい答えに変換してしまうことがあった。今日の講義でどんな意見も受け入れ、そのまま書いていきたいと思った。子どもと共に黒板をつくっていききたい。【小】
・子どもと子どもをつなぐことが教師の仕事だと教えてもらいました。やはり教師の仕事として大切なことは「授業」だと思います。私は授業の中で生徒との対話を大切にしているつもりでしたが、扇形授業(子どもA対教師、子どもB対教師というように閉ざされた1対1の応答に終始している授業)をしてしまっていることに気づきました。ダイヤモンド型(子どもたち同士がつながる)授業を目指すために、まずは授業規律から大事にしたいです。【中】

・これまでの授業をふり返ると、授業を進めるために「他の意見は?」と子どもがせっかく言った意見を切り捨てていた。「わかる」を引き出すためには、「わからない」を引き出していききたい。そのために発問をした後、「待ってみる」ことを明日から実践したい。【中】